

新青丸共同利用研究航海報告書

- * 航海番号 KS-24-10次研究航海
- * 航海名称 (和文) 日本海西部対馬暖流域における大気・海洋高解像度連続観測による水蒸気輸送過程の実態解明
(英文) Investigation of water vapor transport processes over the Tsushima Warm Current region of the western Sea of Japan by continuous high-resolution atmospheric and oceanographic observations
- * 観測海域 (和文) 日本海西部
(英文) western Sea of Japan
- * 航海期間 令和 6 年 6 月 17 日 (月) ~ 令和 6 年 6 月 27 日 (木)
- * 出港日時・場所 6 月 17 日 14 時 函館港
- * 入港日時・場所 6 月 27 日 10 時 函館港
- * 寄港期間・場所 無し
- * 研究課題 日本海西部対馬暖流域における大気・海洋高解像度連続観測による水蒸気輸送過程の実態解明
- * 主席研究員 (氏名・所属・職名・e-mail アドレス ◎は@)
小松幸生・東京大学大気海洋研究所・准教授・kosei@aori.u-tokyo.ac.jp
- * 研究内容, 主調査者 (e-mail アドレス), 観測項目
 1. 対馬暖流域における海洋構造と洋上水蒸気輸送過程の関係解明
小松幸生 (kosei@aori.u-tokyo.ac.jp)
CTD/LADCP、UCTD、気象ラジオゾンデ、GNSS
 2. GNSSとマイクロ波放射計を併用した連続観測による洋上水蒸気量の微細分布構造の実態解明
吉田 聡 (yoshida.akira.4z@kyoto-u.ac.jp)
気象ラジオゾンデ、GNSS、マイクロ波放射計、全天雲カメラ
 3. 海面粗度の変化が大気海洋間のフラックスに与える機構の解明
小松幸生 (kosei@aori.u-tokyo.ac.jp)
レーダ波高計、ドップラ波高計、大気海洋間乱流フラックス計
 4. 対馬暖流域における生物地球化学循環過程の実態解明
乙坂重嘉 (otosaka@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)
CTD/LADCP・採水、現場式濾過装置

* 乗船研究者氏名・所属・職名

- 小松幸生・東京大学大気海洋研究所・准教授
- 吉田 聡・京都大学防災研究所・准教授
- 乙坂重嘉・東京大学大気海洋研究所・准教授
- 余 澤庶・東京大学大気海洋研究所・特任研究員
- 林 沅・東京大学大気海洋研究所・大学院生
- 児玉武稔・東京大学大学院農学生命科学研究科・准教授
- 下仲雄大・東京大学大学院農学生命科学研究科・大学院生
- 矢部いつか・東京海洋大学・学振特別研究員
- 横田 健・東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科・大学院生
- 渡辺鎮二・東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科・大学院生
- 叶 楷文・名古屋大学大学院環境学研究科・大学院生
- 小川泰生・京都大学大学院理学研究科・大学院生
- 平賀詩之助・三重大学大学院生物資源学研究科・大学院生
- 大橋勇介・三重大学大学院生物資源学研究科・大学院生

* 航跡・測点図

